

好学尚武

練習試合の結果

3日(土) 対所沢中央高校

第1試合 4対4 引分

第2試合 17対4 勝利

通算成績 9勝 1敗 1分

今後の予定

4日(火) 休み

5日(月) 大東大一(市高で) 9時～

6日(火) 城北埼玉(市高) 9時～

7日(水) 関西遠征 姫路工業(姫路市営球場)

第5回市高カップの結果(2日目最終日)

8月2日(金)

○大宮北会場(1～3位決定戦)

大宮北 6対3 越ヶ谷

越ヶ谷 6対9 市立浦和

市立浦和 対 大宮北

(雷雨、途中まで)

優勝・・・大宮北・市立浦和(両校優勝)

3位・・・越ヶ谷

○市立浦和会場(研修試合)

草加南 2対16 都立深川

○草加東会場(研修試合)

草加東 7対6 草加西

草加西 対 蕨(中止)

蕨 対 草加東(中止)

印象に残った選手②

この夏の主役・・・大宮東・島村君も間違いなくその1人であったと思います。

彼個人のことを話す前に・・・

大宮東の河西監督とは同い年ということもあり、しょっちゅう練習試合をさせていただいています。その練習試合はたいてい(力のある)大宮東に市高がやられる・・・という形で終わりますが、負けてもあまり悔しい感じがしない・・・なぜか・・・東の野球に対する姿勢が(点差が離れていても)「一切手を抜かない」というものだからです。また、試合中は当然、敵・味方に分かれていますが、試合前や試合後は完全にノーサイド・・・(互いに野球をする仲間という雰囲気になる)大宮東のこういう感じは、さすが体育科のある学校、と思わせるものだと感じています。

さて、島村君・・・上記のような取り組みが一気に花開いた夏だったのではないのでしょうか・・・埼玉栄戦で1試合2本の満塁本塁打、上尾戦で起死回生のタイムリー・・・でも私が一番素晴らしいと思ったプレーはそれらではありません。市立川越戦の4回、先頭打者のライトフェンス直撃の打球をライトに守っていた彼が2塁でアウトにしたプレー、これです。普段、本業が投手の選手が外野の守備に入った場合、「何でオレが外野なんだよ・・・」的なプレーをしがちです(明らかに手を抜く・・・)、でも彼は逆でした・・・「一切手を抜かない全力プレー」。この試合、このプレーで大宮東は市立川越に勝利したと私は思っています。(ここで無死2塁になっていたら大宮東は間違いなく苦しかった・・・)

スペースがなくなりました。市高部員に伝えたいのは「愛されるチーム・個人を目指す・・・そのためにはどのような取り組みが必要か、です」 考えてみて下さい。